

令和6年度(2024年度)高校講座実施報告
(3月分)

●愛知県 県立小坂井高等学校(令和7年3月5日)

講演テーマ: 外務省の仕事

講師: アジア大洋州局 北東アジア第二課 福島亜季 主査



●千葉県 県立長生高等学校(令和7年3月17日)

講演テーマ: 外務省の概要と日本を取り巻く国際情勢

講師: 内閣官房 世界遺産登録等に向けたタスクフォース担当 小高京子 課長補佐



●千葉県 県立千葉高等学校(令和7年3月19日)
講演テーマ: 外交が描く未来 — 交渉の現場から —
講師: 大臣官房 総務課 玉浦周 企画官



●東京都 都立八王子北高等学校(令和7年3月21日)
講演テーマ: 外務省における仕事内容とこれまでのキャリア
講師: 国際法局 経済紛争処理課 保田響 課長補佐



●山形県 私立羽黒高等学校(令和7年3月24日)

講演テーマ: 外交とは

講師: 中南米局 中米カリブ課 大石広行 課長補佐



参加者からの感想(抜粋)

- 在外公館の話は、今学校で勉強している内容も出てきたので、文字として知っていた知識を生きた知識に深めることができた。
- 講師の高校1年生の時に見た邦画から外交官を目指してひたむきに勉強したというエピソードを聞いて、自分も何か熱心に勉強できるような目標を設けたいと思った。
- まずは身近なニュースを見たりして、日本や外国との関わりを知り、自ら調べたりしていきたいと感じた。また講師の「日本を客観的に見る」という言葉を忘れずに、普段から意識したいと思った。
- 外務省の仕事は自分で考えていたことよりはるかに多いことが印象的だった。また、海外と日本を繋ぐ大切な組織だと言うことがわかった。
- 言語の壁や価値観の違いなどが国々の間には存在している中、日本のために日々努力する姿はとても憧れるものであり、今後もその姿勢を貫いてほしい。
- 外交をする際には、直接関わる方々だけでなく、私たち国民の理解が不可欠だということを実感した。世論も外交に影響するということを知り、高校生のうちから関心を持ってニュースや時事に触れることが大切だと感じた。
- 各国が交渉をすることで取り分を単純に分けるのではなく、各国が真に欲する部分を交渉を通じて理解し合うことで、例えばオレンジの実と皮に取り分を分けることでそれぞ

れが100%に近い満足度を得られるかもしれないという例えが興味深かった。それぞれ自国の事情がある中で、どう相手と折り合いをつけるのか考える機会になった。

- 外交と聞くと、今までは自分には関係のないことだと切り離してしまっていたが、今回の講座で外交は意外にも身近な事柄に関わっているということが分かり、驚いた。とても大変な仕事だと感じたが、それと同じくらいのやりがいもあるのだと思った。